

- II-5 咀嚼癖・ブラキシズムによる頭蓋顔面複合体の変化について
○畑中豊美
(畑中歯科矯正歯科)

【目的】咀嚼癖・ブラキシズムといった「咬合力の癖」によって、頭蓋顔面複合体がどのように変化するか検討したので報告した

【方法】20歳以上の男女516人（顎関節雑音が聴取された300人、聴取されない216人）について、正貌並びに側貌セファロレントゲンについて検討した。演者が開発したRed Blue Overlapping Method(正貌セファロの右側を青鉛筆で左側を赤鉛筆でトレースして、正中基準線で二つ折りにして、頭蓋骨上部は下降した線を、頭蓋骨下部は上昇した線を選択する)という図形学的分析法を用いた

【結果】頭蓋骨上部は噛み癖側に下降し、頭蓋骨下部は噛み癖側に上昇する。下顎骨は2相性の偏位を示し、第1相ではオトガイ部は偏位せず噛み癖側の下顎骨体部から下顎枝部はねじれ上がり、第2相ではオトガイ部も噛み癖側へ偏位することが明らかとなった

【考察・結論】解像度は、アナログ画像がデジタルやCTよりも高い咬合力による頭蓋顔面複合体の変化はアナログ画像の分析が基本である。従来の統計学的分析法は計測誤差と変換誤差のため、初期の三次元的変化を把握できなかったが、図形学的な分析法で明らかとなった。左右均等な咬合力が頭蓋顔面複合体の左右対称性を維持し、顎口腔並びに頭頸部の健康に寄与することが示唆された

- II-6 ジャンプ着地動作における膝前十字靭帯損傷予防トレーニングの効果
○佐々木静 津田英一 山本祐司 前田周吾 木村由佳
石橋恭之 (弘前大・院医・整形外科)

- II-7 八戸市立市民病院における下肢壊死に対する治療の検討
○青木恵^{1,2} 末綱太² 入江伴幸² 鈴木雅博²
大石裕誉²
(青森県立はまなす医療療育センター 整形外科¹
八戸市立市民病院 整形外科²)

- III-8 改正臓器移植法施行後の当院における脳死下臓器提供への取り組み
○野田頭 達也¹ 近藤 英史¹ 今 明秀¹
(八戸市立市民病院救命救急センター¹)